

農業水利遺構をめぐる地域振興活動の可能性 The Possibility of Community Promotion to Agricultural Water-use Facilities

湯川洋史
YUKAWA Hiroshi

1. はじめに

本発表は熊本県菊池郡菊陽町にある鼻繰り井手という水利遺構をめぐる地域振興活動を通して生じた地域振興の副次的な効果について述べるものである。

鼻繰り井手は菊陽町から熊本市の大江渡鹿まで流れる馬場楠井手の内、菊陽町の曲手—辛川間約 390m に渡って続く農業水利遺構を指す。鼻繰り井手は現在も 181ha の農地を潤す現役の農業水利施設だが、一方で名称の由来ともなった鼻繰り構造という白川から流れ込む火山灰土砂を水力によって排出するという独自の構造と、加藤清正が建造したという歴史的言説によって当該地域の観光資源の目玉として人々の関心を集めている。本発表では当該地域における活動への参与観察と、ボランティアガイドを中心とした地域住民への聞き取りを元にして鼻繰り井手における地域振興活動の実相とその結果として当該地域にもたらされた経済効果以外の副次的な効果について述べるものである。

2. 活動の様相

鼻繰り井手をめぐる地域振興活動は、南部町民センターと菊陽町文化財ボランティアガイドを中心にして行われている。鼻繰り井手を観光できるようにと、平成 9 年から地域用水環境整備事業の歴史的保全型による遺構全体の補修と周辺の公園化が約 4 億 1300 万円かけて行われた。平成 9 年には鼻繰りの名を冠した鼻繰り大橋も完成し、鼻繰り大橋から鼻繰り井手を一望できるというロケーションも生み出された。こうした鼻繰り井手及び公園の整備は平成 15 年には一応の完成をみて、人々を受け入れる体制が整った。今後は物産館などの設備の拡充を図っていくという。そうしたハード面の整備と並行しながらボランティアガイドを中心として、どのように鼻繰り井手をアピールしていくかということが検討された。ボランティアガイド達は勉強会で学んだ知識を基に、観光客に井手の歴史や構造について詳しく説明を行っている。こうした普段の活動以外に、平成 20 年に鼻繰り井手築造 400 年を記念した祭りを開催してからは、現在まで毎年 11 月に鼻繰り井手祭を開催している。祭りには地域の伝統芸能や新たに創りだされた踊りなどが行われているほか、普段は見ることはできない井出底を歩いて回ることができることとあって中々の盛況となっている。この他、菊陽南小学校の児童との世代間交流事業を行うなど、鼻繰り井手を中心に据えながら様々な活動が行われている。

3. 活動のもたらしたもの

こうした鼻繰り井手をめぐる地域振興活動は、経済的な利益以外に以下の 2 点を当該地域にもたらした。第一に、当該地域に新たな連帯を生み出したということが挙げられる。

「ボランティアガイドとして、地域のために活動するようになって、やっと地域の人に恩返しができる」と語ってくれたボランティアガイドがいる。彼は農業を生業としていたわ

熊本大学社会文化科学研究科 Graduate School of Social And Cultural Sciences Kumamoto University

キーワード 農業水利施設、伝承、地域振興

けではなく、定年退職を迎えるまで勤めに出ていた。その間、地域の行事や集まりなどに参加することがほとんど出来なかったが、家族は地域の世話になっていたことが、いつも心苦しかったという。彼は定年となり初めて地域のために活動出来た時、やっと一員になれたと感じた。ボランティアガイドの中には農業を生業とする人もいるが、多くは定年退職者であり、壮年時代において地域の活動に参加出来ない人達が多い。こうした人々は地域振興という文脈の中で活動出来た時、初めて地域の成員となったと感じたのである。当該地域ではお法師祭という12年に一度役が回ってくる大切な祭りがあるが、その祭り以外には自分達が主体となって行う大きな祭りがほとんどなかった。しかし、平成20年以後の鼻繰り井手祭によって、普段地域の行事に参加することができない働き盛りの壮年世代にとっての地域貢献の場と壮年世代同士の交流の場が生み出された。鼻繰り井手のこうした一連の活動は、地域になじむ事が出来なかった人々と地域とを密接に関係させること、帰属意識を持たせることに一役買い、これから地域を支えていく壮年世代の交流を促す結果へと結びついたのである。第二に、子どもと老人、老人と壮年世代、壮年世代と子どもというように地域における伝承の場が創造されたことが挙げられる。南部町民センターで行われる世代間交流事業を見せてもらったが、鼻繰り井手に掲げる手製の看板を作る間、老人達は昔の川遊びの話や白川のことを話しながら作業にあたり、子ども達も関心深げに聞き入っていた。また菊陽南小学校の児童による鼻繰り井手建造をモデルにした寸劇や、児童による獅子舞の演舞なども行われている。この他にも多くの子どもと大人を結ぶ活動が行われており、世代間の伝承の場は確実に増えていると言える。

4. おわりに

ここまで鼻繰り井手をめぐる地域振興活動を例として、地域を主体的に捉えなおすことによって改めて地域とコミットすることの出来た人々と、地域をこれから支えていくことになるであろう子どもと老人との橋渡しを地域振興活動が担っているという、地域振興活動の副次的な効果について述べた。こうした副次的な効果は当該地域に、経済効果以上のものをもたらす可能性を持っている。活動を通して生まれた新たな絆や地域への愛着は活動を更に発展させていく力や視点を地域住民同士で生み出すことに役立つと思われるからである。鼻繰り井手をめぐる地域振興活動はこれから多額の資金を投入して緑地公園化や資料館、物産館の建築などの大規模なハード面の拡充が図られ、今まで以上に経済効果を求める活動が展開されていくことが予定されている。こうした活動の展開において副次的な効果はどのような影響を与えるのだろうか、その点を今後も注視していきたい。また今回は活動の中心にいるボランティアガイドを中心とする聞き取りに集中してしまい、鼻繰り井手本来の用途である農業水利施設として関わっている人達に対する聞き取りがおろそかになってしまっている。今後はその方面での聞き取りも行っていき、より多角的な視点から農業水利遺構をめぐる地域振興活動における可能性とは何かということを考えていきたい。